

平成22年 第17回 日南町教育委員会 議事録

日時 平成22年11月8日 PM1:30~PM2:10

場所 日南町役場 第2会議室

出席者：立脇教育委員長 長崎教育委員 福田教育委員 内田教育長

説明者：湯原日南中学校長 青戸日南小学校長

委員長) 定刻となりましたので、ただ今から第17回の教育委員会を開催したいと思います。本日は後の日程が詰まっております。したがって議事、協議事項についてスムーズに進行するようにご協力をお願い致します。そうしますと2番の報告ですがありますでしょうか。

教育長) ありません。

委員長) そうでしたら、3の議事に入りたいと思います。日程第1議案第31号教育委員の辞職について説明をお願いします。

教育長) 日程第1議案第31号教育委員の辞職について説明します。本件につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第10条の規定に基づき、教育委員の辞職について同意を求めるものであります。10月29日付で一身上の都合により10月31日をもって日南町教育委員を辞職したい旨の辞職願が山本芳昭委員から提出されました。既に、町長は承認しているようであります。教育委員会としての同意をここで得るため、承認する行為を取りたいと思います。よろしくお願い致します。

委員長) はい、今説明の在りましたとおり辞表が31日付けで提出されています。これに対する町長の承認もあったようであります。規定によりまして、当委員会の同意が必要でありますので、おはかりをしたいと思います。辞職願について何かご意見はございますか。質問がないようでしたら同意ということでまとめさせていただきます。

委員長) 質問は無いようですので、教育委員の辞職について同意をするということになりました。それでは、日程第2議案第32号準要保護児童生徒の認定についてに移ります。説明をお願いします。

教育長) 議案第32号準要保護児童生徒の認定について、別紙により承認を求めるものであります。詳細につきましては事務局から説明いたします。

事務局) 別紙の資料1をご覧ください。10月13日に申請がありました世帯について準

要保護の世帯に認定をお願いしたいと思います。判定の比率は 0.99 の第 1 段階に該当することになります。ご審議のほどよろしくをお願いします。

委員長) 今説明の在りましたとおりですが、事務局の調査の結果該当するということが、委員の皆さんご質疑がございますか。

委員長) 無いようですので、認定ということで良いでしょうか。

委員一同) 了承します。

委員長) 了承されました。そうしますと、4 の協議に移りたいと思います。説明をお願いします。

教育長) 協議ですが(1)と(2)を含めて説明させていただきたいと思います。今回協議事項と挙げました要因として、平成 23 年度全国学力・学習状況調査を実施するか否かの希望の調査が来ております。結果的にどうなるかはわかりませんが、基本的な考え方について協議していただきたいと思います。この考え方については、標準学力調査について、また平成 22 年度の学力・学習状況調査、標準学力調査の総括も関係してきますので併せて協議願いたいと思います。参考意見として、間もなく中学校長と小学校長まいりますので現場としての所見をいただくこととしております。まず、事務局のほうから平成 22 年度全国学力・学習状況調査及び標準学力調査の総括についての概要を説明したいと思います。

事務局) 前回の教育委員会の時に全国学力・学習状況調査の結果報告について町報に載せるための原稿を審議していただき、今月号の町報に日南町の概要を広くお知らせしたところですが、今年度から抽出調査となり今年度小中学校とも該当になったところですが、調査結果の分析、検討を行ってきた中で、国語については成績が安定してきていると考えます。これは、日々の朝読書等の積み重ねではないかと思えます。特に算数・数学については、まだまだテコ入れを図っていく必要があるのではないかと考えています。町報でも学習意欲を高め集中力を身につけようというお願いや継続的な家庭学習そして読書を通して豊かな心や表現力を育てようなどの広報活動をし、サマースクールにおいて基礎学力の定着に向けた動きを事務局でも行っている訳ですが、新しい学習指導要領が来年度全面実施になります、そういう中で特に学力向上、思考力・判断力の育成が不可欠な状況にあります。こうした中で全国学力・学習状況調査は全国的な流れの中で、今必要な力を測定するためには適切な調査だと思っています。来年度以降の全国の流れの中で理科についても含めていく動きも始まっています。標準学力調査については昨年度小学校の統合をきっかけに 2 年生以上中学 3 年生まで実施し分析等させていただいています。これについても 8 月の委

員会の時に分析結果をお知らせしたところですが、両方の状況をみて特に日南町の課題である自尊心が低い、主体性が低い、困難なことに立ち向かうなど学力の一番根底をなす部分についてまだまだ力をつけていかなければならないと考えています。学校の中でいうと教員の資質の向上が必要です。事務局としても力を入れて学校の支援が必要になってきます。また、家庭での教育力の向上を図るための資料を作成するためにも両方の調査ともに大切なものであると考えています。学力向上につながる環境整備として4点課題があると考えています。1つ目は教師の資質の向上。2つ目はそれに伴う授業改善。3つ目は保護者の教育があると思います。先日鳥取大学へ行き要望してきましたが、家庭教育の向上を図る家庭で自尊心を育てていくための親子の関係も必要です。最後に地域教育力の向上です。これら4点を詰めていく必要があると考えています。

委員長) それでは、事務局から報告がありました事務局の方では全国学力・学習状況調査と標準学力調査は必要という見解のようです。結論についてはこれから現場の考え方も含めて検討していきたいと思います。それでは、中学校長のほうから現場の考え方についてご発言をお願いします。

中学校長) 全国学力・学習状況調査と標準学力調査を行っている訳ですが、結論から言うとどちらの調査も同じような結果になっています。質問紙の内容もほぼ同じような状況です。また正答率についても同じような結果になっています。国の行うものと任意で行うものと2つ行っている訳ですが、国が行うものについては、国語と数学しか出てこないという問題が1つあります。標準学力調査については残りの3教科、主要5教科の正答率が出るような状況です。やったからには結果を分析して改善につなげていくことになりませんが、2つ行ったら2つとも分析をして公表を行っていくべきものだと考えています。したがって同じような結果が出てくるといふことであれば、2度手間となり改善にむけての時間を割いてくることになります。中学校としては、標準学力調査1本で行っていただきたいと考えております。2つの調査結果が今年度偶然一致したという結果ではなくて、過去数年間の状況をみるとやはり同じような結果になっています。同じような結果が出るのであれば1つで十分ではないかと考えています。また、年度毎の数値が確認できるといった点ですが、分母が違う状況の中で比べることについてどれだけ期待できるのかなと思っています。同じ生徒の状況を図るには全国学力・学習状況調査では現れてこないという状況の中でどちらか一方ということであれば標準学力調査のほうが良いというのが現場の声です。全国学力・学習状況調査は全国の中でどの位置づけなのかというのは分りますが、前年度に比べてどう変化したのか分からないという弱点が見当たります。以上のことから中学校としては標準学力調査1本で出来ることなら行いたいと思っています。

委員長) この件に関しましては、昨年も同じようなご意見があったと記憶しております。

結論的には標準学力調査をもってすれば十分足りるといったことになります。委員の皆さんから質問、ご意見をお願いします。

委員) 昨年私はテストする時間はあるだろう、またテストは多いほうがよいといった意見を述べました。今も若干そのような考え方を持っています。先日徳島と府中へ研修に行きましたが、研修の中で話されたことはそれぞれ生きる力を養うことでした。子どもが将来生き抜く力を養うことのできる学力をつけるということになりますよね。テストばかりではありませんが、1つはテストがあるわけですから活用するのも手段です。結果をみさせていただきますましたが、表の中には期待正答率というのがあって、中学校の正答率があるわけですが、すべての教科について期待正答率を下回っています。これを改善させるためにもテストをすることが良いという意見もあるのではないかと思います。

中学校長) 結果については小学校からの積み重ねの中で現在の結果が出てきています。質問紙等にも多数の課題が出てきています。それについて取り組まなければならないということになります。このような問題点についてはほぼ同様な結果になっています。同じような結果であれば、2つも必要ではないと感じています。1つで間に合うようであればその1つに向かっていくのが時間の有効的活用が出来ると考えています。確かにテストを出すことで子どもたちの刺激にはなります。しかし、実際には検査ということで全国学力・学習状況調査を実施しているため、子どもたちはこの調査をテストとして認識はしていないと思います。同じような形で出るのであれば、1つに絞って行いたいと思っています。

委員) テストする時間を減らし学力向上に充てるのであれば、結果を出して示してもらいたいと思いますし、学力アップにつなげてもらいたいと思います。調査結果から正答期待値よりすべて低い状況の中で、生徒にも先生にも保護者にも刺激を与えたいと思っています。1つでもいいと思いますが、ぜひ余った時間を数字として出してもらえたらと思います。

中学校長) 今の場合は小中一貫で日南町は頑張ろうとしています。結果については小中の先生で分析し考えていくことが出来つつあります。今はこの小中一貫となって分析することに時間を充てたいと考えています。分析した結果をもって授業改善に充てたいと思っています。

委員) テストは個人が今の実力を知ると、教師がどれだけ生徒に身に着けさせたのかを図るものだと思っています。テストという名をもって子どもたちに勉強させることは違うと思っています。現場として1つで良いということであれば、1つで良いと思います。来年もまだ抽出調査ですか。

教育長) はい。来年度の全国学力・学習状況調査は希望ありませんと回答しても当たる可能性はあるということです。

委員) 今年は希望を出さずに抽出にあたってしまったという結果だったんですね。

教育長) 可能性とすれば、今年あつたので来年はあたらぬ可能性もあります。

委員) 今年問題になったのが、希望していないのに当たってしまったということになってしまい、自分たちの思いと違っても受けなければならぬ状況もありますので。来年も抽出されたらどうしようかなという思いもあります。

委員長) 昨年も現場の思いとすれば、標準学力調査のみでいいのではないかということで、委員会としても全国学力・学習状況調査は行わないことで一致していましたが、結果として抽出にあたってしまったという昨年の経過もありますので。先ほどから出ている意見も昨年と同じだなと感じています。それでは、小学校長のほうから小学校現場としての意見をお願いします。

小学校長) 標準学力調査は科目数が多くあり、標準学力調査を実施してもらえればありがたいと思っています。全国学力・学習状況調査の場合については、標準学力調査と同じような結果になっています。標準学力調査にも質問紙がありますので十分内容も網羅していますので把握することが出来ます。全国学力・学習状況調査だと2教科だけですので、標準学力調査の方が教科数も含めてメリットがあると思います。行うということであれば、標準学力調査1本で良いと思います。標準学力調査の方が結果も早いですので、次の手段を取りやすいと教員のほうも認識しております。

委員) 基本的には理解できました。先ほども話をしましたが、私はテストが多いほうがいいのではないかと、刺激がある方がいいのではという考えを少なくとも思っています。頂いた資料について、対前年比あがった教科もありますが、正答期待値と比較するとすべて下回っている状況にあります。標準学力調査だけということであれば、全国学力・学習状況調査を行わない余った時間を、正答期待値に近づくように学力向上に努めてもらいたいと思います。

委員長) 小学校中学校の現場の声はきかせていただきましたので、確認ですけど全国学力・学習状況調査については、抽出されれば受けるということで、願うならば標準学力調査のみ行うということで、現場の意に沿っていきたいと思いますがよろしいでしょうか。ご意

見等あればお願いします。

教育長) 日南町教育委員会としての確認事項ですが、日南町では標準学力調査を主体的に行っており、全国学力・学習状況調査については基本的には希望しない。しかし抽出された時には受けるということでまとめたいと思います。

委員長) 今、教育長がまとめてくださったように、現場の意に沿うような形で行きたいと思います。それでは、以上をもちまして第17回の委員会を閉じたいと思います。